

海外事業関連損失等の計上に関する 説明資料

2016年1月14日

川崎重工業株式会社

ブラジル合弁事業の経緯

- 2012年、ブラジル市場への参入、オフショア分野の技術・ノウハウ蓄積、ブラジル造船業育成への協力を目的に合弁契約を締結し、ブラジル大手総合建設会社であるOdebrecht・OAS・UTC3社が設立したEnseadaに30%出資した。
- 以後、当社は、合弁契約に基づき、Enseadaへの技術支援、研修生の受入、指導員の派遣等を実施してきた。
- 当社はEnseadaが建造するドリルシップ1番船・2番船の船体部の下請建造契約およびアジマススラスト(船用推進機)供給契約を締結、製造を進めてきた。
- 2014年に始まったブラジルの汚職問題の影響で、Enseadaへのドリルシップ建造工事の入金が中断し、Enseadaの資金繰りも悪化した。
- Enseadaは、リストラ等の自助努力やブラジル側筆頭パートナーであるOdebrechtを中心とする支援により事業を継続し、当社も繋ぎ資金の貸し付けや、合弁契約に基づく協力を行ってきた。

ブラジル合弁事業の現状

- ① 2014年11月以降、Enseadaへのドリルシップ建造工事の入金がない状態が1年以上継続しており、Enseadaの財政状態が悪化している。
- ② ドリルシップ建造工事の早期の入金再開が望めない状況に鑑み、2015年11月、1番船・2番船船体部の建造工事中断をEnseadaと合意した。
- ③ 当社のEnseada向け売掛金および貸付金が、2015年12月の期日までに支払われなかった。



Enseadaは事業を継続しているものの、上記の状況に鑑み、Enseadaへの出資金および同社向け仕掛品の資産性ならびに売掛金および貸付金の回収可能性等を評価した結果、所要の経理処理を行うこととし、2015年度第3四半期連結決算において、221億円の損失を計上する。

ブラジル合弁事業関連損失(連結)の内訳

(億円)

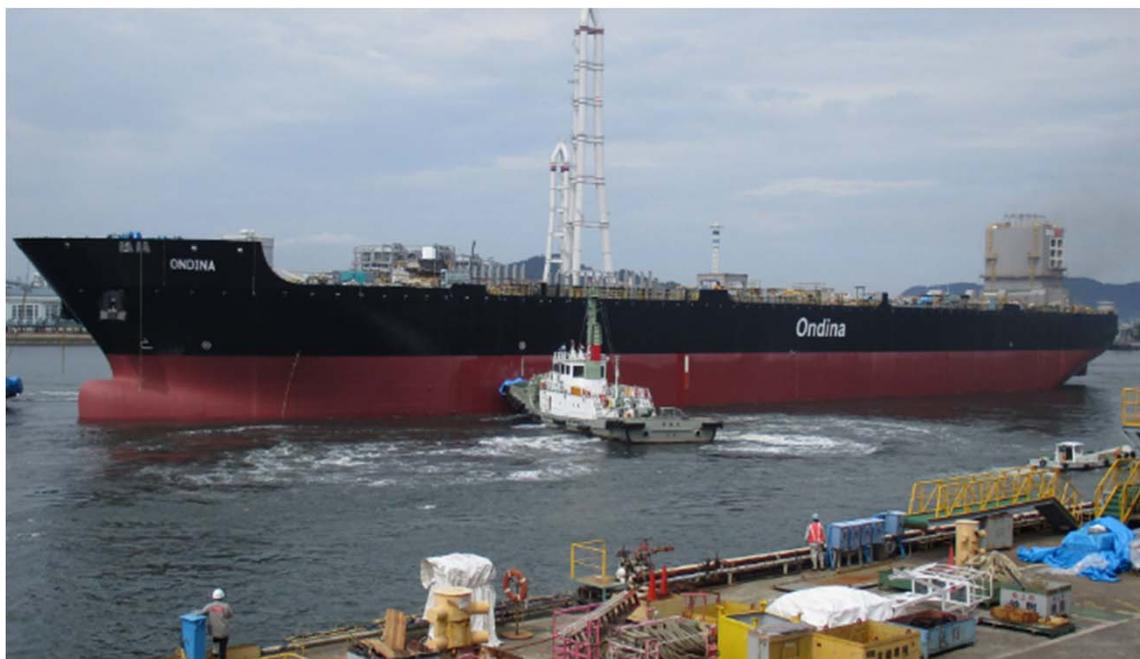
項目	損失処理額			備考
	営業外費用	特別損失	合計	
Enseadaへの出資金・貸付金	28	0	28	2015年12月末時点の連結投資簿価全額、および貸付金全額を処理。
ドリルシップ船体部	0	158	158	売掛金・仕掛品から前受金等を控除した金額を処理。 なお、損失額の算定にあたっては、50億円程度の回収見込みを織り込んでいる。
アジマススラスト他	0	34	34	アジマススラストの売掛金・仕掛品全額、およびその他の技術指導料、小口案件等の全額を処理。
合計	28	192	221	

※ 輸出保険については、保険条件の点でNEXIと見解の相違があり、求償できる可能性が低いことから、今回の損失額の算定にあたっては考慮していない。

ブラジル合弁事業の今後の方針

- 1番船・2番船船体部およびアジマススラストの工事は中断している。
- 1番船・2番船およびアジマススラストの工事再開については、ブラジル現地の状況を見極めて判断するが、損失リスクが拡大しないことが前提。
- Enseadaに対する技術指導や研修生受け入れ等、合弁契約に基づく協力関係は今後も継続する。

(参考)1番船外観写真



2015年度業績見通しおよび期末配当予想

- 2015年度業績見通しについては、今回の損失を認識すること等により従来見通しを下方修正する見込みであるが、詳細については現在精査中のため、1月28日に予定している第3四半期の決算発表にあわせて公表する予定。
- なお、本件損失計上に伴う期末配当予想(1株当たり7円)の修正は行わない。

世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する “Global Kawasaki”

ご注意

本資料のうち、業務見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控え下さるようお願い致します。実際の業績は、外部環境及び内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となり得ることを御承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、対米ドルをはじめとする円の為替レート、税制や諸制度などがあります。